彼方【かなた】

校長通信
H29.6.27
Vol.8

【やる気を引き出す！】（進路保護者会資料）

小学校と中学校の決定的な違いは、出口です。中学校を卒業する時は、一人一人が違った進路を選択し、進んでいかなければならないということです。

長い間進路指導に係わり、二者面談や三者面談、保護者の皆さんとのやり取りを通して、ずっと感じていることがあります。それは、進路実現に向かう時の言葉かけや応援の仕方についてです。黙っていても自分の進路に向けて一生懸命取り組む子といつまでたってもなかなか進路に向き合わない子がいます。そこには日頃の言葉かけに大きな違いがあるのです。いくつか例を示しながら、どのように対応すればよいかを考えていきたいと思います。

①「怒鳴って励ます」…「何度言ったらわかるの？いつまでも携帯なんかいじってないで、少しはちゃんと勉強でもすれば！いい加減自分の進路ぐらいちゃんと考えてくれる？」

②「疑って励ます」…「ちゃんとやるって言って、ちっともやらないじゃない。どうせまた勉強したふりしてラインでもやるんでしょ。」

③「否定して励ます」…「少し上がったぐらいで安心しないでね！元がダメなんだから」

④「悪いレッテルを貼って励ます」…「あんた本当にバカね。こんなのもできないの？」

⑤「比較して励ます」…「お兄ちゃんは去年の今頃一生懸命頑張っていたのに、お前は何をやっているの？」

⑥「ガッカリして励ます」…「どうせ自分の進路なんだから好きにすれば！　はぁ、本当にどうしようもない。」

⑦「不安がって励ます。」…「本当に大丈夫なの？英語の成績全然上がらないけど。」

⑧「代わって励ます」…「この子は、国語が苦手だからどうやって勉強したらいいかわからないのよね。」

⑨「脅して励ます」…「こんなレベルでやってるなら就職してもらうからね。」

例示した声掛けと反対のことをやれば少なくとも今より行動化できるようになります。絶対にやってはいけないのは人格否定するような声掛けです。③や④のようにダメなレッテルを貼ってしまうとそれに近づくように潜在意識が働き、行動化してしまうので、できるだけ前向きな言葉を発することが大切です。「勉強しないと、高校行けないよ。」というダブル否定を「勉強すれば、高校行けるよ。」というように少し変えるだけで前向きな言葉に変わります。

「小さな変化を見つけて心に留め、相手に伝える」ことが大切です。これが「事実を認める」＝「誉める」「称賛する」ということです。

期待され、具体的に改善を図る目標を設定し、取り組み、認められ、評価されれば、行動化しやすくなるものです。

高校見学に行き、「この学校で四月から高校生活を送るんだ！」というゴールのいいイメージを持たせ、「お前なら大丈夫！頑張り屋さんだから必ずできると信じてるよ！」と魔法の言葉で期待し、実力テスト等の結果を見て、改善点を分析し、具体的に取り組み、「ここまで頑張れたんだからすごいと思うよ。」とプロセスを認め、結果が上向いたら「よくこの問題が解けたね！驚いた。」と感動をIメッセージで伝え、「この先はどうするの？」と質問することで、頭を使わせ、「時間内で終わらせる！順位をあげる！」というような具体的な目標を立てさせ、「大丈夫！絶対やれる！自分を信じろ！」強い言葉で激励し、本気で応援する前向きな言葉を笑顔で届けたいのです。

少なからず、前半に例示した言葉よりも後半のアイテムを使った方がやる気も湧き、行動化するようになります。

実際教えた生徒の中でも、ものすごい伸びを示した生徒が沢山いました。そういう生徒には、多くのいい言葉やぐっとくるフレーズが浴びせられていました。叱るより認めて誉める方が、絶対にいいのです。叱るのは自分の自己満足です。誉めるのは相手の満足を創ります。進路は、団体戦です。皆で前向きに取り組みましょう！